

大熊町を

端から端まで

知りつくそう!

● 第3回 年貢道路

ふるさと
再発見

道

私たちが生活していくのに必要な道を取り上げてみました。

昔は水くみ・洗濯・薪拾いや畑へのとおり道、または、家と家、田と田や家と田を結んでいた道。

道は文化のアクセス、希望へのアクセス。

そんな道を訪ね、むかしの事など掘り起こしてみようと企画してみました。

年貢道路（まつすぐ道）

野上から南金谷、広谷地を経て、更に大川原線および鉄道線路を横切り、三角屋を経て熊川に通ずる道路で、全長七、八〇〇mに及び、往時、年貢米を運搬するために使用された道路で、米俵は主として駄馬の背に載せ、あるいは荷車で運んだ。俗に年貢道路と呼ばれた。明治三八年県道に編入され、後に大熊町を東西に横断する主要な道路となった。（町史より抜粋）

昔、野上原（のがんばら）は風が強く、道の両側に土手を築いて、風と大砂塵を防いでいたそうである。三角屋から熊川海岸までの道は、途中、地藏堂から先の昔の道がはつきりしていない。

江戸時代の後期、年貢米は熊川の沖から「千石船」と呼ばれた年貢運搬船で江戸へ運ばれた。

年貢米は「浜倉」（お倉という地名で残っていた）に一時集積されていた。

小入野川を挟んで東向と西向の集落があった。河口へは川幅四〜五間の運河があり、沖待ちをして停泊している千石船へ年貢米を積み込むため、小舟の往来で賑わい、活気があったという。

また、熊川の浜では漁業も盛んであった。かつおの一本釣り、ハエナワ漁でクロガラ、ドンコなどがとれた。魚はこの道を通って近くの村々へ運ばれた。またこの道は塩の道とも重複し、海から山へ物資を運ぶ重要な道であった。

現在の「まつすぐ道」

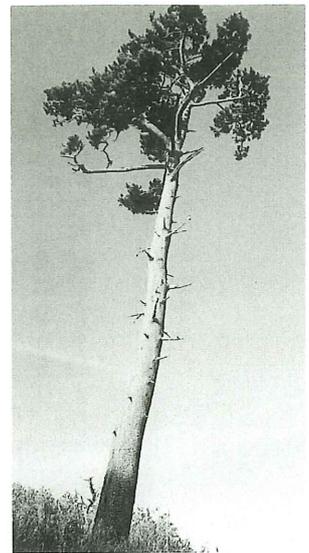
大熊町保育所、県立病院、保健センター、大野小学校、双葉翔陽高校、など主要な機関がある幹線道路である。



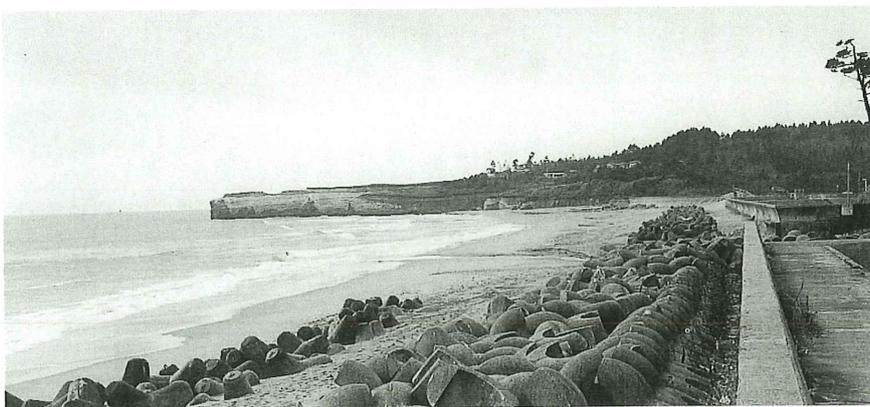
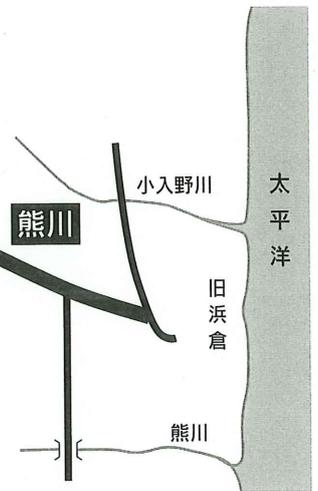
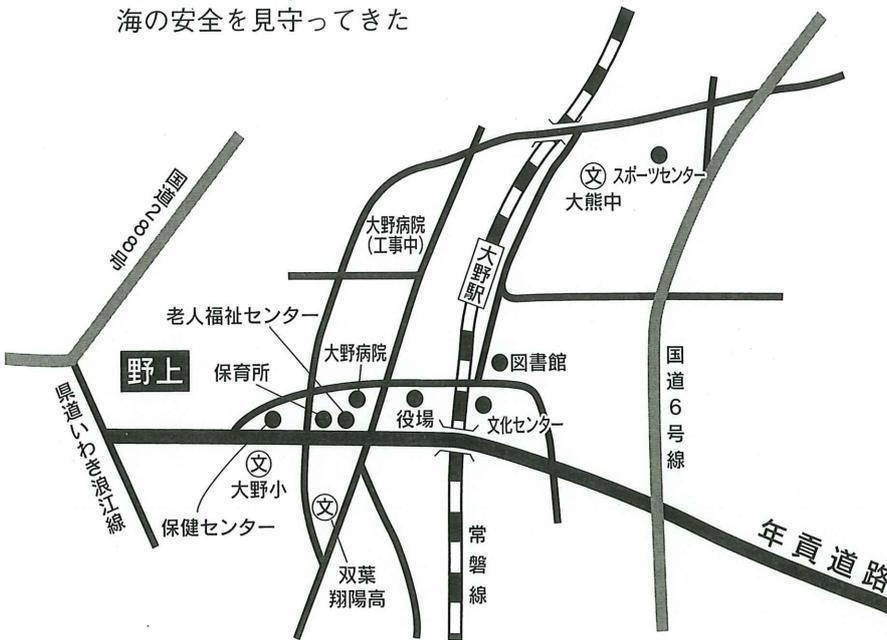
地蔵堂から熊川へ続く昔の道



海津見神社の古い祠が
海の安全を見守ってきた



集落には樹齢四百年からの松並木があったが平成元年ごろから松枯れがひどく(松食い虫)、伐られてしまった。名残の一本松



現在の海岸線はかなり侵食が進み、集落の面影はない

次回からは、
新しい企画を
準備中です。
お楽しみに!!

熊川の浜には港がなかった
ので沖へ船をだすのにはずい
ぶん苦労したものだ。船が来
ればごろを並べて船を曳い
だった。このホッキは型が
大きく評判がよかった。「むき
ホッキ」として業者が買いに
きたこともあった。ホッキは
昭和二三年ごろから、採れな
くなった。その後、小良ヶ浜
(わんど) 漁港ができてから
熊川の浜では漁をやる人はい
なくなつた。

大正時代の三月の節句ご
ろ、底引き船(ギス船)が、
西風を受けて転覆し、六、七
人乗っていたうち、半数が遭
難したという大きな海難事故
があった。(半谷重孝氏談)